

## 学会行事

### 学会奨励賞

2017年度日本社会関連会計学会奨励賞は、以下の論文が受賞いたしました。

楚雪・東田明「C S R 報告書におけるネガティブ情報の開示—新聞報道の影響と正統性—」『社会関連会計研究』第29号所収

<受賞理由>本論文は、日本企業におけるC S R 報告書におけるネガティブ情報の開示を対象とした研究が少ない中で、ネガティブ情報開示の実態を明らかにし、新聞報道が企業の開示行動に与える影響を分析した点に高い評価が与えられる。新聞報道でのネガティブ情報の開示とC S R 報告書でのネガティブ情報の開示には大きなギャップがあることを明らかにした。とくに、新聞報道等によって企業のネガティブな事実が社会に知られているわけでもないのに、企業がC S R 報告書でネガティブ情報を開示することを示した点は学術的貢献である。また、新聞報道が限定的ではあるが、企業のネガティブな事案の改善に影響している可能性があること、ネガティブ情報に関しては、その改善案を同時に示すことで企業は正統化しているという主張も、正統性理論の観点からは重要な知見である。

問題点としては、業種や収益性の影響の分析がない、ネガティブな内容の重大性の分析がないことが挙げられよう。また、新聞報道には記者のバイアスが入り、「新聞読者が好みそうなネガティブ情報」を発信し、企業は最小限のネガティブ情報しか出さないのが常で

ある。スクープ的に流された情報に対して企業が躍起となり改善策を開示するのは、市場での評価・株価維持のためとも考えられる。本論文ではネガティブ情報の重みづけや重要性が新聞と企業とは違うことを十分峻別せず、同じ土俵で評価している。この点、論理展開にやや無理があるように思われる、との意見もあった。

上記のようなさらなる改善点も散見されるが、新聞報道とC S R 報告書のネガティブ情報の関係を日本の上場企業100社の報告書から丹念に分析した意義は大きく、有用性・将来性の面での評価を高く認める審査員が多かった。よって、奨励賞に値する論文であると結論づけた。

### 第30回全国大会

2017(平成29)年10月28日(土)～10月29日(日)

会場：法政大学

大会準備委員長：菊谷正人（法政大学）

【第1日：10月28日（土）】

11:00～12:00 理事会（ポアソナードタワー16階会議室）

12:00～ 参加者受付（富士見ゲート4階ラウンジ）

12:30～13:20 会員総会（富士見ゲート4階403教室）

13:30～14:30（富士見ゲート4階403教室）  
スタディグループ報告

（1）研究代表者：中嶋道靖氏（関西大学）  
「持続可能性社会を目指すための情報開示に関する調査研究」

（2）研究代表者：東田明氏（名城大学）

「環境経営のためのマネジメント・コントロール・システムに関する研究」

14:40～16:40 (富士見ゲート4階403教室)

シンポジウム「環境報告の将来的なあり方と環境報告ガイドラインの役割を探る」

モデレーター：上妻義直氏 (上智大学)

パネラー：水口 剛氏 (高崎経済大学)

町田祥弘氏 (青山学院大学)

阪 智香氏 (関西学院大学)

コメンテーター：村井秀樹氏 (日本大学)

16:50～17:50 (富士見ゲート4階403教室)

記念講演「社会関連会計の遍歴と課題」

野村健太郎氏 (大分大学名誉教授)

司会：大下勇二氏 (法政大学)

18:00～20:00 懇親会 (富士見ゲート3階「つどひ」)

【第2日10月29日 (日)】

9:00～12:00 参加者受付 (外濠校舎3階306教室前)

10:00～11:00 自由論題報告①

(報告20分, 質疑応答10分)

(会場1) 外濠校舎3階306教室

司会：宮地晃輔氏 (長崎県立大学)

報告1：謝江龍氏 (神戸大学博士課程)「MFCAの普及プロセス—新制度派組織論の視点から」

報告2：鈴木 新氏 (就実大学)「原価管理としての品質管理の歴史的研究」

(会場2) 外濠校舎3階307教室

司会：野口晃弘氏 (名古屋大学)

報告1：吉田武史氏 (日本大学)「公会計導入の現状と課題—板橋区におけるインタビュー調査を中心として」

報告2：宮崎修行氏 (国際基督教大学)「シュ

マーレンバッハの利益概念の現代的意義：共同経済的利益概念と『2階建ての会社・会計』の主張をめぐって」

11:10～12:40 自由論題報告②

(報告20分, 質疑応答10分)

(会場1) 外濠校舎3階306教室

司会：大島正克氏 (亜細亜大学)

報告3：宮武記章氏 (大阪経済大学)・吉本圭一郎氏 (日本文理大学)「廃炉の会計の動向と電力会社への影響」

報告4：阪智香氏 (関西学院大学)「租税回避とサステナビリティ」

報告5：村井秀樹氏 (日本大学)「自然資本会計の3類型と実践上の課題」

(会場2) 外濠校舎3階307教室

司会：大原昌明氏 (北星学園大学)

報告3：東田明氏 (名城大学)・趙晨彤氏 (名城大学博士課程)「温室効果ガス排出量情報開示の現状と影響要因」

報告4：王睿氏 (神戸大学博士課程)「環境情報開示の理論研究—先進国と発展途上国比較の理論選択の視点から」

報告5：中尾悠利子氏 (公立鳥取環境大学)・國部克彦氏 (神戸大学)「経営トップとCSRレトリック—サステナビリティ報告のテキストマイニング」

東日本部会

2017年7月8日 (土)

会場：明治大学駿河台キャンパス・リバティータワー16階1166教室

準備委員長：石津寿恵 (明治大学)

■受付開始 (13:00～)・・・リバティータワー16階1166教室前

---

■第1セッション (13:30~14:55)

司会 坂上学氏 (法政大学)

第1報告 (13:30~14:10)

依田俊伸氏 (東洋大学) 「「公立文化施設」の活動についての財務分析の手法」

第2報告 (14:15~14:55)

金宰弘氏 (関東学園大学)・國部克彦氏 (神戸大学) 「サステナビリティ・マネジメント・コントロール・システムが組織パフォーマンスを促進するメカニズム」

■第2セッション (15:10~16:35)

司会 村井秀樹氏 (日本大学)

第3報告 (15:10~15:50)

越智信仁氏 (尚美学園大学) 「統合報告におけるESG開示インセンティブー任意開示拡張の条件と制度補完」

第4報告 (15:55~16:35)

水口剛氏 (高崎経済大学) 「ESG投資の動機の多様化と投資家向け情報開示」

■懇親会 (17:00~19:00)

明治大学グローバルラウンジ (明治大学グローバルフロント17階)

「IIRC のガバナンス・ネットワーク構造」

■懇親会 (17:20~19:00) 「居酒屋 百番 梅田店」

## 西日本部会

2017年7月1日 13:00~

場所：大阪市立大学梅田サテライト (大阪駅前第2ビル6階)

■第1報告 (13:35~15:05)

東田明 (名城大学)・東健太郎 (立命館大学) 「温室効果ガス削減のためのマネジメント・コントロール・システムとパフォーマンス」(本学会スタディ・グループの研究です)

■第2報告 (15:25~16:55)

小形健介 (大阪市立大学)